

ニュースから考える

税理士の佐藤です。連日のメダルラッシュに日本中が盛り上がっています。



開催前のマスコミ各社の中止を目指すネガティブな報道とうって変わっての「感動だ～努力が実った～等々」興奮さめやまぬ報道に違和感を感じるのは私だけではないでしょう。

一方、広告業界に異変が起こっているようです。トヨタ自動車は五輪CMを自粛すると決断しました。その影響もあって、大手新聞社の幹部は「通常ならスポン

サー企業が連日ご祝儀広告をがんがん載せてくれるはずなのに・・・ほとんど入らず新聞業界は大打撃です。」とため息まじりです。実際、新聞紙上は五輪前と変わらず健康食品、保険、通販の広告が占領しています。

TVや新聞の「視聴者・購読者 消費者」という構図が変わった事を考えると、費用対効果でYouTubeなど他の媒体に広告費を使うのは企業として当然です。

観光業、宿泊業、飲食業同様にマスコミも五輪で一儲けとはいかなかったようです・・・。

1分でわかる業務カイゼン

「イソップ物語」で考える・・・

経営者にとって風評被害は許しがたいものです。ほぼ一年前のトヨタ自動車の株主総会で突然、豊田社長が「話は長くなりますが...ロバを連れている老夫婦の話をさせていただきたい」と語りはじめました。



・ロバを連れながら、夫婦二人が一緒に歩いていると、こう言われます・・・「ロバがいるのに乗らないのか？」と。

・ご主人がロバに乗って、奥様が歩いていると、こう言われます・・・「威張った旦那だ」

・奥様がロバに乗って、ご主人が歩いていると、こう言われる・・・「あの旦那さんは奥さんに頭が上がらない」

・夫婦揃ってロバに乗っていると、こう言われ・・・「ロバがかわいそうだ」

豊田社長は「言論の自由」という名のもとに何をやっても企業はマスコミから批判される。実際、総会前にコロナ禍にあっても5000億もの利益確保の見通しと発表すると「トヨタ衝撃8割減益」(前年が好決算のため・・・)と興味本位のタイトルで記事にされます。

豊田社長は続けて「一億総ジャーナリストと言われるくらい誰もが情報を発信できる時代です。情報によって人を傷つける

こともできれば、元気にすることもできる・・・」と、ネガティブな情報を探し求める報道に苦言を呈します。

誰かを貶めるのではなく、皆に勇気と希望を与える情報発信を職業記者にお願いしたいとの思いなのでしょう。一年前のそのような思いも重なり、今回の五輪のCM自粛につながったのかも知れません・・・。

「アリとキリギリス」

Y o u T u b e 等の新しい技術や手法



の発達により自由な発想で誰でも情報発信が可能な時代となりました。

視聴者（読者）が多くのコンテ

ンツからの選択可能な昨今、働きアリのように社の方針を一生懸命に伝えようという職業記者の結果ありきのシナリオ報道はいわゆる「オワコン」となりつつあります。

一方、経営者の中にたまに自分をアリに例える人がいます。たぶん、アリ＝働きもの、キリギリス＝怠け者。だから自分はアリのようにつつと働くといいたいのでしょう。しかし、その発想も時代錯誤なのかも知れません。

多少、大げさですが昔の運動部の指導（水分禁止、うさぎ跳び、体罰等）と同じ

それほど効果がのしない無意味な事に一生懸命となるよりもギリギリのように小さな成長、小さな成功を喜ぶ事が大切です。

「北風と太陽」

さて、次の物語です。

ある意味、経営者は「北風型」と「太陽型」に分類出来るかもしれません。「北風のように力いっぱい頑張って上着を吹き飛ばそう」とする強引なタイプと「太陽のように相手が自主的に脱ぐ」のをじっくり待つタイプです。

そう考えると、物語のように「北風＜太陽」との簡単な構図にはなりません。厳しくしてもダメ、優しくしてもダメ・人の心は複雑怪奇です。経営にしても、人材教育にしてもケースバイ、ケースで使い分けるのが秘訣のようです。

「ガチョウと黄金の卵」

イソップシリーズの最後です。

ある日農夫は飼っているガチョウが黄金の卵を産んでいるのを見つけて驚きます。ガチョウは1日に1個ずつ黄金の卵を産み農夫は金持ちに・・・しかし農夫は1日1個しか卵を産まないガチョウに物足りなさを感じ、きっとガチョウの腹の中には金塊が詰まっているに違いないと考えガチョウの腹を切り裂きました。結局、腹の中に金塊はなくガチョウを死なせてしまいました・・・。

欲は・・・ほどほどに。

今月のことば

たとえ彼が真実を話しても、嘘つきは信用されないだろう。

A liar will not be believed, even when he speaks the truth.

（日頃の行動が大切です。「狼と羊飼ひ」より）

編集後記:

五輪でメダリストが回りの支援に感謝する場面が良く見られます。あと一步でメダルに届かなかった人も同じ思いでしょう。会社も同様で、裏方としてサポートしてくれている人がいる事を感じて欲しいものです・・・(寿)。